

氏名（本籍） 劉 潤（中国）
学位の種類 博士（音楽学）
学位記番号 乙第11号
学位授与年月日 令和3年3月19日
学位授与の要件 学位規則第3条第4項
学位論文題目 昭和戦前期の関東州・大連放送局による流行歌の放送を巡る放送方針とその社会的要因

学位論文等審査委員

（総合審査）	委員長	教授	横井 雅子
		教授	阪上 正巳
		教授	津田 正之
		教授	友利 修
		教授	古川 聡
（論文審査）	委員長	教授	横井 雅子
		教授	阪上 正巳
		教授	津田 正之
		教授	古川 聡
			塚原 康子（東京藝術大学教授、 国立音楽大学非常勤講師）

審査結果の要旨

審査所見

学位審査委員会は、申請者 劉潤の学位申請論文に関して厳正な審査を行った。以下に1. 論文審査、2. 総合審査に関する所見を記す。

1. 論文審査

本論文は、1925～1936年の『満州日日新聞』に掲載された大連放送局の放送番組表から抽出した流行歌の放送記録を基礎データに、当時の日本流行歌および中国流行歌曲の放送実態を把握し、そこから流行歌の放送方針を推定し、その社会的要因を考察したものである。

第一部では、研究の枠組み、先行研究のレビュー、研究方法と資料の説明と、考察の前提となる満州の放送事情がまとめられた。つづいて、第二部では日本流行歌、第三部では中国流行歌曲を対象に、①その成立・普及の概説、②流行歌のレコード放送に関する分析、③流行歌の生放送に関する分析をそれぞれ行い、附録として放送記録に楽曲情報を付加した基本データ表4種が添付された。ここから、流行歌のレコード放送と生放送の特徴（放送時間・放送内容）に基づく手堅い結論が導かれている。全体としては、近年注目が集まっている放送に焦点化し、対象地域と時期、音楽ジャンルを絞り、日中の資料調査から当時、満州で発行されていた新聞のラジオ番組表から放送実態を分析し、昭和戦前期の関東州・大連放送局による流行歌放送をめぐる方針とその社会的な要因を明らかにしたオリジナルな研究成果と評価できる。用語の諸概念をていねいに規定し、厳密を期した抑制的な姿勢をみせながら、先行・関連研究の幅広いレビューを通して、研究の目的、方法、意義を明確にしていることや、史資料を駆使し、適宜、図や表にまとめながら論じている点は評価できる。これらの史資料から当時の雰囲気や時代の

空気がリアルに伝わってきて、論文に一種文化的な香りがある点も好ましく感じられる。

ただし、放送実態から放送方針を推定しその要因を考察する際に前提となる検閲の実態について、随所で「過酷な検閲」といった言及をしながら具体的記述を欠く点は修正が必要であろう。

いま一つの指摘として、分析対象とした中国流行歌曲のデータ数の少なさ（レコード放送 10 曲、生放送 35 曲）が挙げられる。仕方がない面があるものの、非常に少ない事例数をもとにその増減を語るなど、統計学的にはいかながなものかと思われる箇所が散見される。生演奏とレコードのデータをまとめるなどの方法も考えられたかもしれない。こと中国流行歌曲については、大連放送局の状況だけでは論じ切れない点があるように思われる。また、放送方針として、放送時間など技術的なものと報告内容の選択の 2 つがあり、あらかじめ決めた方針に従って内容を決めたというより、大衆の好みを反映させながらの選択であったことから、内容面について、あらかじめ決められていたかのような方針という言葉を用いる点には疑問が残る。

結論末尾に加えられた未解明の部分、すなわち戦時中における変化、1936 年に中国流行歌曲の生放送を行った奉天放送局、中国流行歌曲生産の拠点であった同時期の上海や、大連放送局ないし満洲電電に関する流行歌放送方針全体像の解明等については、今後の課題として研究を続けてほしい。

広い学術的な視野から見たときにいささかの物足りなさも残るものの、独創性、実証性が高く、情報量の多い労作として学術的価値を有するものと認め、審査委員会は申請論文が音楽学研究領域の学位論文として合格であると判定した。

2. 総合審査

総合審査では、論文審査の評価を確認したうえで、申請者のこれまでの研究活動の内容や、これまでに発表された業績の評価なども考慮して、総合的な審査を行った。その結果、申請が「自立して研究を展開することができる意志と能力を備え、我が国の音楽文化の進展に寄与するとともに、国際的にも有意義な問題提起のできる質の高い研究者」として、将来も活動していくことが十分に期待できることから、「博士（音楽学） Doctor of Philosophy in Musicology」の学位を授与するに相応しいものと判定する。